

# 高齢女性に多い 背骨の骨折



あさしま しゅうぞう  
水口医療センター整形外科 浅島 周造

高齢の女性が転倒や尻もちのあとに強い腰痛を発症する、今回はそういうケースについて説明します。

閉経後の女性の多くは、骨粗しょう症やその一歩手前の状態にあるといえます。年齢とともに骨の形はあまり変化しない(たとえば身長が3分の2になるということはないですよ)のに対し、その骨量は大きく減少します。つまり、もとの形のままで骨が軽く薄くなり、その結果折れやすい状態になります。

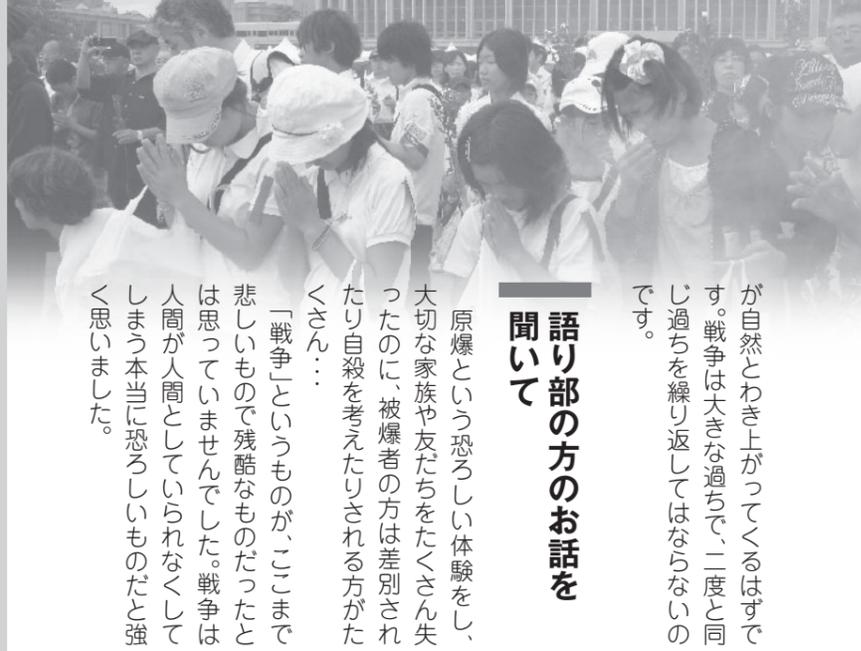
強い腰痛を訴える高齢女性の中に少なからず「背骨の骨折」がみられます。胸椎と腰椎の境目、つまり背中の真ん中より少し下あたりが折れていることが多いです。患者さんは寝返りもできないと言い、腰のあたりを示します。ときに下腹部まで回り込む痛みを訴える方もいます。

診断にはレントゲン撮影が欠かせません。起こりやすい場所をねらって撮らないと見落とすことがあります。その骨折が新しいものか過去に起こったものかを鑑別するにはMRI検査が有効です。

この骨折が原因で下半身麻痺になることはまれで、通常は安静とコルセット装着を一定期間続けることで自然治癒します。これを怠り安静にしないと大きく変形した状態で骨が固まり、すっきりと症状がとれません。骨は4週間程度でひつき、痛みも軽くなりますが、そのあと4週間は再骨折の危険もあるので合計8週間程度はコルセットを併用したほうが良いと考えます。

いずれにせよ早期にレントゲンで診断をつけることが肝心ですので、おかしいと思われたら早めに受診をお願いします。また、当院では骨粗しょう症の検査を行っていますので、心配な方は診察や検査を受けていただくのが良いと思います。

問い合わせ 水口医療センター  
☎ 62-3346 ☎ 63-1728



# 恒久平和の 思いを胸に

広島平和記念式典に当市から23名が参加



広島で行われた平和記念式典に参加するため、8月5日、6日の両日、市内小学校6年生が現地を訪れました。

市では、次代を担う世代の人に、戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさ、平和の尊さを学んでもらうため、毎年同式典への参加を実施しています。今年も、参加者が平和活動のリーダー的役割として、学んだことを伝えていけるよう、募集人数を拡大、去年より8名多い23名が参加しました。

児童は、5日に市内各小学校から託された折鶴と、平和を願い毎年児童へ託されているデイスターセンターすこやか荘からの折鶴を原爆の子の像に捧げました。64回目の原爆の日を迎えた6日には、平和記念式典が開催され、全国から5万人が参加。児童も参加し、世界の恒久平和を祈りました。参加した児童の感想文(抜粋)をご紹介します。

## 64年の流れの中に

広島は本場に「ここに原爆が落とされたのかわからないほどきれいな街でした。64年という年月の流れと日本人の強さを感じました。でも、それは表の世界であり、まだまだ多くの人たちが原爆の被害で苦しんでいます。」

## 原爆ドームの前で

日本人もアメリカ人も一人の人間として原爆ドームの前に立てば、原爆の恐ろしさや被爆者の悲しみを感じ、平和を願う気持ち

## 核のない世の中へ

私は目を閉じながら64年前のこの瞬間、原爆が落とされ、前日に見たり聞いたりしたことが引き起こされたんだと頭の中で考えています。

「この世の中から核がなくなりますが、一人ひとりの力は小さいけれど、みんなの力が集まれば大きな力となり、核のない世の中がつけれると思います。」

## みんなに伝えたい

ぼくは自分の中で考えているだけですが、広島で学んだ戦争の悲惨さと平和の大切さをみんなに伝えていきたいと思っています。そして、

## 力を合わせて世界を平和に

二度とあの過ちを繰り返さないために、核兵器廃絶の署名をしたり何事も話し合いで解決したりできるようにしていきたいです。

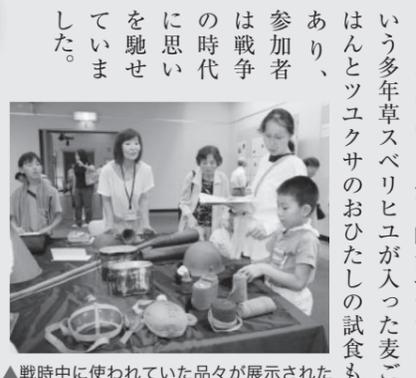
今、私は自分がここに生きているという幸せと平和を十分に噛みしめています。これからも戦争についてたくさんのお話を勉強し、もう二度とこのようなおそろしい戦争が起こらないようにしたいと思っています。そして、自分のことを考えるだけでなくみんなと力を合わせ、世界中の人が安心して平和に暮らせるように祈り、世界の将来にも目を向けていきたいと思います。

「YES WE CAN」

## 湖国の戦争を学ぶ 平和祈念展2009

あじこうが市民ホールで平和祈念展2009が開催されました。会場には、県内から集まった戦没者の遺品や手紙、当時の子どもが描いた絵日記などが展示されました。

会期中の8月26日には、戦争を体験した東近江市の中島伸男さん(おお)から戦時中の生活についてお話がありました。

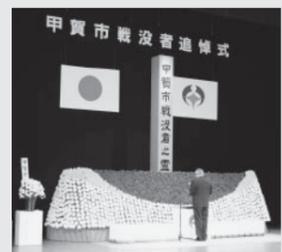


▲戦時中に使われていた品々が展示された

## 戦争の教訓を 正しく後世に

現在私たちが受けている平和と繁栄が、祖国のために命を落とされた戦没者の犠牲の上に築かれていることを忘れてはなりません。市では、毎年、各地域で戦没者追悼

式を開催し、お亡くなりになった方のご冥福をお祈りすることとしています。8月から11月にかけての各追悼式では、広島平和記念式典に参加した児童の作文朗読なども行われています。戦後64年が経過し、国民の4分の3が戦争を知らない世代となりました。過去を謙虚に振り返り、悲惨な戦争を二度と繰り返さないよう、後世に正しく伝えていくことが私たちの責務です。甲賀市は、8月3日、平和市長会議に加盟しました。核廃絶に向けた国際的の一歩として、その役割を果たしていき



▲慰霊の言葉を述べる中嶋市長